

今日から始める
自然観察

アカガエルに 会いに行こう



寒い冬の最中、^{だれ}誰よりも早く冬眠から目覚めるアカガエル。
雨降り後には、普段は見つけにくいアカガエルたちを、よく観察できる絶好の
チャンスです！ アカガエルたちはこんな寒いときに一体何をしているのか？
しっかり防寒をして、アカガエルに会いに出かけてみましょう。



ヤマアカガエルの産卵。メスの背中にオスが乗っている。

文：休場聖美

モニタリングサイト1000里地調査アシスタント

写真：前田憲男 イラスト：蛙ノ庄

寒いときに卵を産む

まだ寒い時期に、アカガエルは冬眠から目覚め、繁殖のために田んぼなどの水場に集まります。寒くてヘビなどの天敵が活動できず襲われる心配がないことや、オタマジャクシが、他種のオタマジャクシがいないうちに餌を食べて大きくなれることなど、良いことがあるのです。



越冬中のニホンアカガエル

また眠りにつく春眠

繁殖が終わると疲れてお腹が空いてますが、まだ虫たちが起きていないので、暖くなるまでまた眠ります。冬ではなく春に眠るので、これを春眠と呼びます。春眠から目覚めると、餌を求めてニホンアカガエルは田んぼ周りの草地などに、ヤマアカガエルは山の方に移動します。

アカガエルの一年 (関東近郊の場合)

気温によって繁殖の開始時期が前後するため、九州・四国地方では12月中、近畿地方では1月ごろ、東北地方では4月ごろにずれます。

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
冬眠	繁殖	春眠	成体								
		卵									
			オタマジャクシ								
						幼体					

早春に水辺で観察できるアカガエルには、主にニホンアカガエルとヤマアカガエルがいます。姿はそっくりで捕まえて見ないと判別は難しいですが、水場がある辺りから「ニヤツニヤニヤ」と鳴き声が聞こえてきたらヤマアカガエルがいます。ヤマアカガエルは、鳴き声を大きく響かせる「鳴のう」がありすが、ニホンアカガエルにはないので「キュクク」と静かな鳴き声です。鳴き声のする方向に、そっと近づいてみましょう。田んぼや浅い池、流れのない水路など、10 cm くらいの深さがある水場に、ポツポツとオスが座っていたり、オスとメスがくっついていたりするのが見られます。また、既に産卵された卵塊（数百〜千個ほどの卵の集まり）もあるかもしれません。卵塊があれば、そっと手の下からすくってみてください。生まれたては固めのニホンアカガエルの卵でも、時間が経つとヤマアカガエルの卵のようにどろりとしてしましますが、卵一つ一つがぶちぶち切れる感じがおり、区別できることもあります。

ヤマアカガエル



外見



ニホンアカガエル



全国のアカガエル

北海道

エゾアカガエル

対馬

ツシマアカガエル
チョウセンヤマアカガエル

本州・四国・九州

ニホンアカガエル
ヤマアカガエル

奄美

アミアアカガエル

沖縄

リュウキュウアカガエル

鳴き声 めい う



よく似たタゴガエル

繁殖を終えたヤマアカガエルが山へ帰ると、山にすむ、よく似た見た目のタゴガエルと間違えやすいです。タゴガエルはのどが黒ずんでいて、ヤマアカガエルより顔が小さく見えます。



卵塊



どろりと指の隙間から垂れてすくにくく、触った後もべとべとする感触がある



やや固めで全体をまとめてぶりっとすくえる

オタマジャクシ



黒い点がない



上から見ると背中に対の黒い点がある

生息環境

山地（平地の水場で繁殖後、周りの森林へ移動する）

平地（水田や湿地、草地など）

観察時の注意

カエルや卵塊を触る前後には、水で手をゆすぎましょう。手に付いた物を洗い落とすのと同時に、手のひらの温度を低くしてカエルへの負担を減らすことができます。

アカガエルが暮らす場所

見た目以上に深いこともあるので、田んぼや池の中までは入らずに、外から手の届く範囲で観察しましょう。カエルは夜間の方が動きも鳴き声も活発ですが、昼間だと卵やオタマジャクシが観察しやすく、ときどき鳴き声が聞えることもあります。

これまでアカガエルは、冬でも水が溜まる浅い水場を好んで、主に田んぼで繁殖をしてきました。しかし近年は、田んぼ自体も減少し、繁殖場所から森への移動の際に大きな道路や側溝に阻まれて、アカガエルが減ってきています。アカガエルたちの暮らしを観察しながら、これからもアカガエルたちと一緒に暮らすために大切なことを考えてみてください。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。